

第2学年 国語科学習指導案

い組 男子20名 女子20名 計40名
指導者 坂本 敬

1 単元 読んでわかったことをまとめよう

(教材「たんぼぼのちえ」光村2年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第1学年「くちばし」の学習で、問いと答えという文のまとまりを考えながら、内容の大体を読み取る能力を身に付けてきている。また、「ちがいをかんがえてよもう」の学習で、同じ観点に沿って、違いについて考えて読もうとする態度を身に付けてきている。さらに、読むことによって得た知識を相手に伝えたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、たんぼぼが生長する様子を、その過程に沿って読むことによって、順序に気を付けて書かれている内容の大体を読み取る能力を身に付けさせるとともに、読み取ったことを、相手に分かるように内容や順序を工夫して話したり書いたりしようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「読んでわかったことをまとめよう」(教材「たんぼぼのちえ」)を設定した。

この学習は、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取り、自分の知識や生活経験と比べながら感想をもち、書いたことを互いに伝え合う「読んで考えたことを書こう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「たんぼぼのちえ」は、たんぼぼの花が咲いてから綿毛が飛んでいくまでの過程を、新しい仲間を増やすための「ちえ」として時間的な順序に沿って、様子、理由に分けて分かりやすく説明している文章である。子どもにとって身近な存在であるが、少し観点を変えれば、未知の要素も多いたんぼぼを取り上げ、子どもたちに未知のことを解明・発見できる喜びを実感させることができる本教材は、この期の子どもたちに適した教材である。また、たんぼぼが変化していく過程が「二、三日たつと」「やがて」などの順序を表す言葉によって明確に書かれており、時間的な順序をとらえるのに適している。さらに、「それは～だからです。」という、理由を説明する文末表現も使われており、事象とその理由をとらえた文章を話したり書いたりすることを学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、植物のちえについて書かれた本を読んで分かったことを紙芝居にまとめるといふことを読みの目的とさせる。その際、時間的な順序を表す言葉に気を付けて、植物の生長の変化をとらえさせたり、事象と理由を関係付けさせたりすることが大切である。

具体的にはまず、身近な植物について、自分が知っていることや不思議だと感じていることについて話し合わせる。また、目的意識をもって学習に取り組ませるために、自分たちが不思議だと感じている植物について調べて分かったことを紙芝居形式にまとめるといふことを、単元の目標として設定させる。

次に、「たんぼぼのちえ」を読み取るために、「～ます。」というたんぼぼの様子や「それは、～だからです。」「～のです。」という理由を表す文末表現に着目させることで、事象と理由を区別させ、内容の大体をとらえさせる。そして、順序を表す言葉に気を付けさせたり、時間的な順序を考えさせたりするために、学習したことを紙芝居形式にまとめさせる。

さらに終末で学習を振り返らせる中で、子どもたちが日常生活の中で不思議に思う植物の生長について調べ、分かったことを、「〇〇〇のちえ」という題の紙芝居にまとめさせる。そして、それをみんなに紹介したり意見交換したりしながら、自然そのものへの興味・関心をさらに高めていくことができるようにする。

これらの学習によって得られる能力や態度は、身近な生き物に興味をもち、接続語や文末表現に

気を付けて、大事なところに気を付けながら文章を読もうとする態度へと結びついていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や教材に対してどのような興味・関心をもっているかについて調査した結果は次のとおりである。(数字は人数を表す。)

| | |
|--|---|
| ① たんぽぽについて知っていること ※複数回答(主なもの) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・花が黄色(29) ・成長したら綿毛ができる(19) ・綿毛は風で飛ぶ(11) ・葉がぎざぎざしている(7) ・綿毛には種が付いている(3) | |
| ② たんぽぽで遊んだ経験 | ③ ②で「ある」と答えた遊びの種類 ※複数回答 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ある(24) ・ない(16) | <ul style="list-style-type: none"> ・綿毛飛ばし(20) ・花輪・飾り作り(8) ・すもう(4) ・くきのふえ(2) |
| ④ 初発の感想 ※複数回答(主なもの) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽについて知らないことがたくさんあったんだ(11) ・倒れてもまた起き上がるのが不思議(10) ・種子を風で飛ばして仲間を増やすことがすごい(9) ・たんぽぽにはいろいろな知恵があってすごい(8) ・雨の日に綿毛の落下傘がしぼむことが不思議(7) ・たんぽぽの綿毛に種子が付いていることを初めて知った(5) ・綿毛ができるとせいを高くすることが不思議(4) ・たんぽぽの花が綿毛に変わるなんて初めて知った(3) ・晴れと雨の日でたんぽぽの様子が違うことを初めて知った(3) | |
| ⑥ 理由表す言葉への気付き | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「～からです。」(29) ・「～のです。」(9) | |
| ⑦ 時間的な経過を表す言葉への気付き | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「二、三日たつと、」(25) ・「やがて」(12) ・「このころになると」(9) | |
| ⑧ 難語句 ※複数回答 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・らっかさん(22) ・じく(16) ・しめりけ(15) ・ちん(14) ・せい(12) ・すほんで(10) ・えいよう(4) ・しぼむ(3) ・ぐったり(2) | |
| ⑤ たんぽぽのちえへの気付き ※複数回答 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「花とじくを休ませて種にたくさん栄養を送り、種を太らせる」(11) ・「綿毛がらっかさんのようになり、種をふわふわと飛ばす」(19) ・「花のじくが起き上がり伸びていき、せいを高くする」(6) ・「澄り気の多い日や雨降りの日には、綿毛をすばめる」(9) | |

子どもたちは、たんぽぽについて高い興味・関心をもち、知識ももっている。しかし、実際にたんぽぽを手にとり遊んだ経験がない子どもも多く、その知識も、花の色や、葉の形、綿毛に集中しており、たんぽぽの生態や仕組みの不思議さに気付いている子どもは少ない。(①・②・③) また、たんぽぽの成長や変化の様子を表した文を基に、そこに隠された「ちえ」に気付き、問題意識をもっている子どももいるが、事象と理由を関連付けて考えている子どもは少ない。それは、これまでに「～からです。」「～なのです。」などの文末表現を意識した読み取りが少なかったため、「たんぽぽのちえ」が、たんぽぽの様子についての提示の後にその理由が説明されていることに気付いていないからだと考える。(④・⑤・⑥) さらに、時間的な経過を表す言葉に気付き、順序に気を付けて読んでいる子どもも少ない。これも、これまで時間的な順序に従って書かれている文章に触れる機会が少なかったためだと考える。(⑦) 語句については、らっかさん、じくなど、意味を知らない語句があることにより読み取りに抵抗を感じてしまう子どももいるようである。(⑧)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、理由の述べ方に目を向けさせる働きかけを行い、時間的な順序を考えながら読むことの大切さに気付くよう、学習内容や指導方法を次のように工夫することが大切であると考え。

ア たんぽぽの不思議さへの関心を高めさせるために、生活科の「春のさんぽ」の学習でたんぽぽを手にとらせたり、観察させたりする時間を十分確保する。そして、その共通体験を基に、不思議に思ったことを話し合わせる。また、たんぽぽ以外の生き物のちえに興味を持たせるために、教師が他の生き物についての説明した紙芝居を提示し、「〇〇のちえを調べて、みんなに知らせたい」という目的意識や相手意識をもたせる。

イ 事象とその理由という文のまとまりをとらえさせるために、説明した事象の理由を相手に問い返し、その問いに答える活動を行い、「～ます。」「それは、～からです。」「～のです。」といった文末表現に着目させる。

ウ 順序を表す言葉を学習し、使えるようになった効力感を味わわせるために、日常生活の中で不思議に思う植物のちえについて調べさせ、紙芝居を作成させ、発表を行わせる。その際、共通課題として作成した紙芝居「たんぽぽのちえ」との関連を十分に意識させる。

3 目 標

- (1) 身近な植物の「ちえ」を分かりやすく表現することに関心を持ち、時間的な順序、事象とその理由を確かめながら進んで科学的読み物を読もうとすることができる。
- (2) 事象と事象を比較してたんぽぼの変化について考え、時間的な順序をとらえることができる。
- (3) ア 時間的な順序に沿った事象の変化とその理由を考えながら、たんぽぼの「ちえ」について読み取ることができる。

イ 身近な植物の「ちえ」を紙芝居にまとめようという目的をもって、事象の変化を時間の順序に沿って表現することができる。

4 指導計画 (全 15 時間)

| 過程 | 思いを連続・発展させる心の高まり | 学習課題・学習内容の構造・主な学習活動 | 教師の具体的な働きかけ |
|---------------|---|--|---|
| つかむ・みとおす ② | たんぽぼは植物なのに「ちえ」があるのかな。「ちえ」って、動物だけのものではないのかな。 | 1～2 内容への興味の喚起と学習目標・計画の立案 1 「植物について、知っていることを、みんなにはっぴょうしよう。」 ・植物の不思議発表 ・紙芝居モデルの鑑賞 ・教材の音読 ・初発の感想 ・単元の目標設定 ○○のちえについて、読んで分かったことをかみしばいにして、学びゅうのみんなにしらせよう。 2 「学習計画を立てよう。」 | ○ 学習への興味・関心を高めさせるために、日頃感じたり、知っていたりするたんぽぼや植物の不思議について発表させる。 ○ 読み取ったことを、自分の表現活動につなげるという目的意識をもたせるために、教師が作成した紙芝居を提示する。 ○ たんぽぼの変化をとらえさせるために、時間を表す言葉を基に、前後の様子を対比させる。 |
| しらべる ⑦ | いろいろな植物のちえについて、自分でも調べてみたい。 たんぽぼのちえが、とても分かりやすく書かれているな。 たんぽぼは、どうしてこんなことをするのか。 | 3～9 「たんぽぼのちえ」の読み取り 3 「花がさいて 2,3 日たつと、たんぽぼはどうなるのだろうか。」 ・たんぽぼのちえ(1)の読み取り 4 「花がすっかりかれたあと、たんぽぼはどうなるのだろうか。」 ・たんぽぼのちえ(2)の読み取り 5 「たんぽぼは、なぜわた毛をふわふわとばすのだろうか。」(本時) ・たんぽぼのちえ(3)の読み取り 6 「わた毛は、なぜひらいたりすぼんだりするのだろうか。」 ・たんぽぼのちえ(4)の読み取り 7～9 紙芝居「たんぽぼのちえ」作成 『たんぽぼのちえ』の紙しばいをつくらう。 ・「たんぽぼのちえ」のまとめ ・紙芝居「たんぽぼのちえ」の発表 | ○ 原因や理由を表す文末表現に気付かせるために、「綿毛だとなぜよいか」「背伸びをする理由」「天候によって綿毛はなぜ開閉するのか」などについて話し合わせる。 ○ 時間的な順序を表す言葉の必要性について考えさせるために、時間的な順序を表す言葉がある場合とない場合とを比較させる。 |
| ふかめる ⑤ | たんぽぼのちえって、仲間を増やすための工夫という意味なんだな。 | 10～14 紙芝居「○○のちえ」作成 10～13 『○○のちえ』の紙しばいをつくらう ・資料収集と紙芝居の作成 ・順序を意識した表現の工夫 14 「じぶんが書いた紙しばい『○○のちえ』は、わかりやすいだろうか。」 ・感想やアドバイスの伝え合い | ○ 読むことによって学んだことを発揮させるために、時間の順序を表す言葉、理由を示す表現等に注目させ、分かったことを紙芝居にまとめさせる。 ○ 学習したことを生かして紙芝居を作ることができたか振り返らせるために、ペアで交換し、読み合わせる。 |
| ふりかえる ⑧ | 「～からです。」という理由を書くと、ちえが分かりやすいな。 | 15 紙芝居発表会 「紙しばい『○○のちえ』のはっぴょう会をしよう」 ・相互発表 ・自己評価 ・相互評価 ○○のちえをかみしばいで学びゅうのみんなにしらせることができた。 | ○ 自己の成長を実感できるようにするために、自己評価カードを用いてこれまでの自分との比較をさせる。 |

5 本 時 (5 / 15)

(1) 目 標

「やがて」「一つ一つ」「ひろがると」「ちょうどらっかさんのように」「ふわふわと」などの言葉に着目して、分かったことをまとめ、時間の経過を表す言葉や様子を表す言葉を使うと、たんぼの様子とその理由がよく分かることに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

時間の経過を表すことばや様子を表す言葉の必要性に気付かせるために、「やがて」「一つ一つ」「ひろがると」「ちょうどらっかさんのように」「ふわふわと」などの言葉がある場合とない場合を比較させ、どちらが分かりやすいか、また、それはなぜか話し合わせながら学習を展開していきたい。

(3) 実 際

| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | 具体的な教師の働きかけ |
|-----------|---|----------|---|
| つかむ・みとおす | 1 前時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。 たんぼは、なぜわた毛をふわふわとばすのだろうか。 | (分) ↑ | ○ 学習に主体的に取り組ませるために、前時までの学習を想起させ、本時の学習課題を設定させる。 ○ 学習の進め方について見通しをもたせるために、自分の考えをもち、ペアや全体で話し合うという手順を確認させる。 |
| | 2 学習の進め方を確かめる。 ・ 一人で考える。 ・ とりの人と考えを伝え合う。 ・ 全体で話し合う。 | 7 | ○ 時間の経過を表す言葉や様子を表す言葉に着目させるために、教材文にサイドラインを引かせる。 |
| しらべる | 3 時間の経過を表す言葉や様子を表す言葉の役割を考え、伝え合う。 別「ふわふわと」という言葉はなくてもあまり変わらないんじゃないかな。 → 「ふわふわと」という言葉からやわらかい、軽いという感じがするな。 ↓ なるほど。「ふわふわと」には、軽い感じや、やわらかい感じがあるな。 → 「らっかさ」も、ふわふわ飛ぶという感じがするよ。 ↓ 「ふわふわと」という言葉があると、綿毛が軽く、遠くまで飛ばされていく感じがよく分かるね。 | 15 | ○ 「ふわふわと」という言葉のもつはたらきを考えさせるために、生活科の学習で、たんぼを観察したり、触ったりした共通経験を想起させる。 ◎ 視点に沿って考えを伝え合うことが困難なペアには、話し合いの視点を確認させたり、視点に沿って伝え合うことができているペアの伝え合いを参考にさせたりする。 |
| | 4 伝え合いを基に、自分の考えをまとめ、全体で話し合う。 はじめは、～と考えていました。それは、～と想っていたからです。でも○○さんの～という考えを聞いて、～と考えるようになりました。 | 15 | ○ 友達と考えを伝え合うことで、自分の考えを深めることができたという学習の有用感を感じさせるために、友達のどんな意見で自分の考えがどのように変わったり、深まったりしたのか振り返らせる。 |
| ふかめる | 5 話し合ったことをまとめ、自分の読み取りを振り返る。 (1) 本時のまとめをする。 できるだけ遠くまで種を飛ばしたいから。 | 8 | ○ 視点に沿って考えを伝え合うことで自分の考えが深まったことに気付かせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。 |
| | 6 次時の学習について、話し合う。 | | |
| ふりかえる・いかす | | | |